

今季初の練習試合

J1昇格3年目の湘南で指揮を執る浮嶋敏監督が新たなスタイルを模索している。13人の新戦力を迎えた

今季は主力の顔触れが大きく変わりそうで、戦術の柔軟性も求められる。18日は神奈川大を相手に今季初の練習試合を行い、新旧戦力の融合を試みた。

(木田 亜紀彦、写真も)

新スタイル確立を



指揮官「32人で総力戦」

みぞれの降るグラウンドで、(攻守の)切り替えの際のリス
選手は「ボールをどっさ奪うかや クマシメント」など守備の確
認に時間を割いた。基本布陣は が、「オプションとして大事」
昨季までの3-4-2-1だと2トップ、3ボランチの新フ



神奈川大との練習試合で競り合う大岩②＝馬入ふれあい公園サッカー場

オーバーシーズンも披露した。昨年10月に就任し、入れ替え戦を経てチームを残留に導いた浮嶋氏。今季の戦い方については、「湘南スタイルにプラスアルファをしていきたい」と語る。前から積極的に圧力をかけてボールを奪い、「波のように攻撃を仕掛けていく」のはこれまで同様だが、「守備の時間が多くなることもある。自分たちの攻撃のペースをできるだけ長くつくりたい」と苦しい時間帯をいかにしのぐかが肝になるとみている。

「心機一転、覚悟を持ってこのクラブに来てくれた」と期待をかける新戦力は12年ぶりに復帰した35歳の石原直ら13人。守護神・秋元やU-23(23歳以下)代表の杉岡ら昨季の主力が多く抜け、「11人で頑張るんじゃないくて、(所属)32人みんなが戦力になることが大事」と例年以上の総力戦を選手に求める。

19日から始まるスペイン南部・マルベリャでのキャンプでは、欧州クラブとの実戦を5、6試合予定しており、指揮官は「チームをたくさん組んでいるので、戦術の共通理解を深めていくのがテーマになる」と話した。